

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	産業経済局未来産業推進課
評価対象期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日

1 指定概要

施設概要	名 称	北九州学術研究都市	施設類型	目的・機能
			I	— ⑧
	所 在 地	北九州市若松区ひびきの		
	設置目的	1 産学連携施設（産学連携センター・共同研究開発センター・情報技術高度化センター・事業化支援センター・技術開発交流センター） 大学、企業等に対し、学術の振興及び産学連携による研究開発等の場を提供することにより、産業技術の高度化及び新たな産業の創出に資する。 2 学術情報施設（学術情報センター） 大学、企業等に対し、情報通信技術を活用した学術の振興及び産学連携による研究開発等の場を提供し、並びに学術に関する情報を提供することにより、産業技術の高度化及び新たな産業の創出に資する。 3 会議場 大学、企業等に対し、学会、講演会等の開催又は産業及び学術の交流の場を提供することにより、産業技術の高度化及び新たな産業の創出に資する。 4 体育施設（体育館・運動場） 学術研究を目的とする者に対し、スポーツ活動の場を提供することにより、その交流を深めるとともに健康の維持及び増進を図る。		
利用料金制		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
		インセンティブ制 有 ・無		ペナルティ制 有 ・無
指定管理者	名 称	公益財団法人北九州産業学術推進機構（FAIS）		

	所在地	北九州市若松区ひびきの2番1号
指定管理業務の内容	学術研究施設等の管理運営に関する業務 ■施設全般に係る業務 1 施設・設備の利用に関する業務（利用調整、許可、使用料徴収等の業務） 2 施設・設備の維持管理に関する業務（清掃、警備、監視、保守点検、一般廃棄物及び産業廃棄物処理業務、植栽管理業務等） ■施設固有の業務 1 共同研究開発センターに関する業務（機器の借入業務、機器保守点検業務、利用者・見学者対応業務等） 2 学術情報センターに関する業務（図書室運営業務、情報通信基盤の管理運営業務等） 3 技術開発交流センター宿泊室に関する業務（予約受付及び利用調整、宿泊料金の徴収・管理、ベッドメイク業務） ■産学連携推進に関する業務 1 産学連携機能の強化に関する業務（情報収集、発信、国プロジェクトの獲得、新たな企画を行うこと等） 2 関係機関との連絡調整（学研都市内の大学間や大学との研究機関との連携・共同等） 3 営業・広報活動に関する業務（効果的な利用促進及び利便性向上に繋がる営業・広報活動や運営を行うこと） 4 施設の有機的な連携に関する業務 ■その他の業務 1 庶務・経理 2 アンケート調査等の業務 3 事業計画書及び収支計画書の提出 4 事業報告書及び収支決算書の提出 5 各種報告書の提出 6 指定期間終了時の引継ぎ 7 その他、北九州学術研究都市の設置目的を達成するのに必要な業務	
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日	

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント		配点	評価 レベル	得点
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み		50		40
(1) 施設の設置目的の達成		35	4	28
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。				
② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取り組みがなされ、その効果があったか。				
③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。				
④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。				
【北九州学術研究都市の設置目的】				
北九州学術研究都市は、理工学系の国・公・私立大学、教育研究機関等を同一キャンパスへ集積させ、産業界との活発な連携によって、既存産業を高度化し、新たな産業を創出する21世紀の頭脳拠点を形成することを基本理念として整備された。				
研究機関集結のメリットを活かした「総合力」を発揮し、交流を通じた協働と競争、施設及び実験機器の共同利用などによって生まれた研究成果を活かした産学連携の促進と新産業創出・技術高度化を推進し、「アジアの中核的学術研究拠点」と「新たな産業の創出と技術の高度化」を図ることを目指している。				
【評価の理由、要因・原因分析】				
①指定管理業務の実施状況				
学術研究都市に集積している大学や研究機関等の知的基盤を活用し、産業技術の高度化及び産業の創出に資するため「産」と「学」の研究開発や連携の場を創出するなど施設の設置目的に沿って有効に活用されている。				
(具体的な取り組み)				
・産学連携に係る研究会活動				
将来有望と見込まれる分野について調査・分析するとともに、地元企業、大学及び公的機関と連携して新たな研究開発プロジェクトを企画・創出する研究会を実施した。				
〔北九州革新的価値創造研究会（カチケン） ・ 3Dものづくり技術研究会 ・太陽光発電と耐荷重計算等研究会 ・ ひびきのAI社会実装研究会 他〕				
・連携大学院の拡充（市の重点的政策への対応）				
学研都市3大学による連携大学院「カーロボAI連携大学院」の運営を支援し、実践的な高度人材の育成をサポートした。また、令和6年度より新規実習科目として、半導体分野の基礎技術				

講座（座学）と学研内半導体試作施設を利用した実習を開催した。（R6 受講者 15 人）

加えて、学生と自動車メーカー・電装メーカー・ロボットメーカー等のエンジニアとの意見交換の場（オフサイトミーティング）を企画運営した。

【参加企業、参加学生数】

年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
参加企業	12 社	12 社	13 社	13 社	14 社
参加学生	72 人	92 人	83 人	80 人	146 人

※ ・・・評価対象年度（以下、同じ）

- ・スタートアップ支援

R6 年度 学研発スタートアップ創出件数：2 件

スタートアップに関連した相談対応、支援、各種情報提供件数：35 件

- ・学術情報センター図書室を活用した利用者向けサービスの向上

「親子DVD上映会」、「宝探しゲーム」といった市民が楽しめるイベントを開催し、総じて施設の魅力ある運営がなされ、前年度と比較して来館者数が増加した。

【学術情報センター図書室への来館数】

年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
要求水準	14 万人以上				
目標値	17 万人以上			15 万人以上	
実績	35,713 人	78,714 人	122,110 人	118,742 人	123,185 人

- ・情報収集、発信、産学交流の促進のため、各種イベントを実施。

【各種イベント・情報収集、発信、交流のための実施事業】

年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
ひびきのサロン	4 回開催 348 人参加	20 周年プレイ ベントにて併 せて実施 503 人参加	6 回開催 515 人参加	8 回開催 726 人参加	6 回開催 492 人参加
ひびきの祭	未実施	未実施	約 3,000 人	約 4,700 人	約 5,500 人
HIBIKINO ODORIVA				2,183 人	6,784 人

※ひびきのサロン：A I やナノテクノロジーなど、その時に関心が集まっているテーマについての無料セミナー。開催数・参加者数ともに前年度より少なくなったものの、例年の水準に維持している。

※ひびきの祭：市民に開かれたキャンパスとして地元自治会と協同したイベント。
「北九州市立大学ひびきの大学祭（響嵐祭）」、地域住民主催の「ひびきの秋祭り」にあわせて開催。

※HIBIKINO ODORIVA：学研都市に関わる人たちが互いに交流し共創していくコミュニケーション

スペースとして、令和5年10月13日に開所。

- ①グローバルなコミュニティの形成、②分野を超えた学びと研究の促進、
③チャレンジ精神やリーダーシップの醸成をコンセプトに、主催イベント
や市・大学と連携したセミナー等を開催。

・留学生の就職支援

学研都市の3大学（北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学）で日本企業に就職を希望する修士留学生を対象に、就職支援プログラムを実施した。

受講学生 24名

就職実績 22名

〔 ・日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株) ・ローム(株) ・楽天グループ(株)
・ソニーGMO(株) ・(株)日立製作所 ・アイシン精機(株) 他 〕

また北九州市内の企業を知ってもらうことを目的に、R6年度から新たにインターンシップ事業を実施し、企業担当者と留学生で意見交換を行った。

参加者数 26名

訪問企業 ゼンリン(株)、日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株)、
GMO インターネットグループ(株)

② 利用者の増加、利便性を高めるための取り組みと成果

学研都市の3大学とFAISによる「キャンパス運営委員会」を開催し、一体的運営の更なる推進や、利用者の利便性向上などの情報共有に努めた。

③ 施設間の有機的な連携について

大学・企業と連携を図り、ひびきの祭等、学研都市全体を活用したイベントを万全の体制で開催した。

また、産学連携施設に入居している企業を訪問し、必要なサポートを実施した。

(具体的な取り組み)

- ・イベントの開催支援（産学連携施設、進出大学施設の開放等）
- ・入居企業への訪問による共同研究、補助金活用提案及びビジネスマッチング等のサポート

④ 営業、広告活動と成果について

東京で開催された展示会への出展や、市政記者クラブへのプレスリリース、学研都市内のラジオ局（Air Station Hibiki）が放送するラジオ番組等により、大学、研究機関、関連企業の研究成果や活動内容を広く発信した。

また、学研都市に来訪した国内外研究者や企業に対し、学研都市の設立目的や個別施設の概要、産学連携の取り組みや成果等を紹介した。

研究者と市民が自由な雰囲気交流する「サイエンスカフェ」の開催、高校・専門学校を対象とした「学研都市見学会」を開催し、効果的な広報活動を実施した。

(具体的な取り組み)

- ・FAIS事業概要(アニュアルレポート)及び学術研究都市紹介パンフレットの発行

- ・市政記者クラブ等へのプレスリリース、ホームページ、SNSでの情報発信（マスコミ等による学研都市関連のニュース報道件数：R6年度160件）
- ・コミュニティFM放送（Air Station Hibiki）による情報発信（R6年度52回）
- ・「北九州学術研究都市の研究者情報」冊子の作成（部数：2,000部）
- ・学研都市サイエンスカフェの実施
- ・高校及び専門学校を対象とした学研都市見学会の開催
（福岡県立八幡高校、山口県立下関西高等学校、島根県立大社高校 他）
- ・脱炭素エネルギーイノベーション総合展への出展（出展ブース来場者数：R6年度338名）

（２）利用者の満足度

- | | | | |
|--|----|---|----|
| ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。 | 15 | 4 | 12 |
| ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。 | | | |
| ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。 | | | |
| ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。 | | | |
| ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。 | | | |

【評価の理由、要因・原因分析】

① 利用者アンケート及び利用者の満足度について

昨年度と比較して全体的な満足度が向上し、目標値および要求水準を満たしている。指定管理者の努力が見られる部分への満足度が引き続き高く、施設利用者からの評価は高いと言える。

【施設利用者の満足度】

年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
要求水準	80%以上			85%以上	
目標値	95%以上			90%以上	
実績	89.2%	92.2%	95.5%	93.2%	94.8%
回答者数	183 人	78 人	112 人	174 人	153 人

② 利用者の意見の把握と反映させる取り組み

学研利用者の意見や要望を把握するために、キャンパス運営委員会の開催、施設利用に関するアンケート、ひびきの小学校との意見交換などを実施した。

その中で出た意見、要望事項に対しては、適宜、関係者等と協議を行いながら、施設利用者の利便性向上や利用環境改善のための取組みがなされている。特に要望の多いバスの増便については、継続して関係者等に働きかけを行った結果増便となり、アクセスが向上した。また、学研都市の入居企業を直接訪問し、意見や要望を吸い上げ、迅速に対応している。

(具体的な取り組み) ・学研都市内屋外案内看板等のリニューアル ・来客者駐車場（会議場横）のゲート改修 ③ 苦情に対する対応 利用者等からの苦情や要望について、迅速かつ適切に対応した。 (具体的な取り組み) ・地域冷暖房用冷温水機故障の緊急対応 環境エネルギーセンターに設置している冷温水機3台のうち、1台が緊急停止したため、応急修理するとともに入居テナント企業等への説明・対応を行った。 ・テニスコート人工芝補修 ・各館エアコン修繕 ・各館雨漏り修繕 ・不適正駐車指導 ④ 利用者への情報提供について 学術研究都市ホームページ、大学を通じた学生への周知、施設内掲示、SNS、FAISメールマガジンの配信等により情報提供を行った。 ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための取り組みと効果について アンケート結果や苦情以外にも施設の安全に係る事項については、迅速に対応し利用者の安全に努めた。			
2 効率性の向上等に関する取組み	30		18
(1) 経費の低減等	20	3	12
① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。			
② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。			
③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。			
【評価の理由、要因・原因分析】			
① 経費を低減するための取り組みと効果について 指定管理者の業務に対し、適宜、業務改善、事務見直し等を行い、管理運営を行った。指定管理者会計規則に基づく見積合わせや競争入札の実施、仕様の見直し、長期継続契約を継続的に導入・実施し、コスト削減を図った。 ② 再委託について 学研都市は警備や清掃の他、特殊装置を有する設備、情報サービス、図書館等管理する分			

野が専門的かつ多岐にわたっており、これらの業務を適切に管理するには、それぞれの業務に精通した専門職が必要である。そのため、F A I Sが直接人員を配置する総務部門と再委託が可能である業務に区分をし、F A I Sが再委託業者を一括管理することで、効率的な運営と質を確保した。人件費の高騰により単価が上昇したが、それぞれ仕様を見直し、競争入札を実施したり、業務の見直しを行ったりするなど、コスト削減のための指定管理者の努力が見られる。

(具体的な取り組み)

- ・学研都市内にある北九大の施設管理業務も受託しているため、本指定管理施設と合わせて北九大の契約も行うことでスケールメリットによる経費削減を図っている。
- ・情報通信基盤の運営業務について、IT環境の変化に対応するために適宜業務見直しを行っている。(R6: システムのダウンサイジングによる機器保守費減額、ヘルプデスク直営化による経費削減)

③ 経費の効果的・効率的な執行について

指定管理料は、修繕費やシステム更新費の増加による全体額の増加にもかかわらず、効率的で効果的な執行がされている。

【指定管理料】

(単位：千円)

年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
予 算	726,530	741,530	741,530	779,620	779,620
決 算	726,530	712,251	741,530	779,620	779,620
執行率	100%	96.1%	100%	100%	100%

(2) 収入の増加

① 収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。	10	3	6
-------------------------------------	----	---	---

【評価の理由、要因・原因分析】

① 収入を増加するための取り組みについて

施設稼働率を向上させ、使用料収入を増加させるため、F A I SのHP、ポスター、チラシ等で効率的なPRを行った。

また、産学連携活動でコンタクトした企業に研究室入居を提案したことで、新たな企業の誘致や既存研究室内の拡張を実現させた。使用料等の徴収については請求明細や催告等を工夫することで収入の確保及び増加に努めた。

【使用料収入】

(単位：千円)

年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
使用料収入	予算	120,836	116,130	116,130	104,824
	決算	95,018	105,016	105,797	107,209
(参考)新規入居数	6 件	7 件	6 件	7 件	12 件

一般開放施設の稼働率がやや下がったため、使用料収入は前年度を下回っているものの、入居企業の新規誘致件数は昨年度より大きく増加し、今後の収入確保・増加に努めた。

【一般開放施設の稼働率】

年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
要求水準	30%以上				
目標値	33%以上	34%以上	35%以上	32%以上	
実績	39.1%	34.6%	33.3%	35.8%	33.0%

自治会や各種学校、学研都市周辺施設に会議場やイベントホールの利用提案等を実施し、稼働率は前年度対比でやや下回ったものの、目標値を上回った。

(具体的な取り組み)

- ・保育園、幼稚園等学研都市周辺施設への利用提案
- ・セミナー開催、企業訪問時でのチラシの配布
- ・研究開発型企业への研究室の入居提案、大学との共同研究の提案

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取り組み	20		14
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況	10	3	6
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。			
② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。			
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。			

〔評価の理由、要因・原因分析〕

① 施設の人員配置について

法令で規定された防火管理者等の有資格者及び半導体やA I 等に関する高度な専門知識を持つコーディネーターなど専門人材を適切に配置した。

なお、経年による施設・設備の老朽化が進行しつつあり、維持・補修の件数が増加することが見込まれるため、補修等へ迅速に対応できる体制づくりが求められる。

② 職員の資質・能力向上のための取り組みについて

職員の資質・能力向上を図るため独自に定めた研修計画に基づき各種研修を実施するとともに、外部機関が実施する施設管理研修への参加など、継続的な職員の資質、能力向上が図られている。

③ 地域や関連団体との連携・協働について

地域等の連携・協働については、キャンパス運営委員会等の開催を通じ、関係者との連携及び意見交換をしながら、ひびきの祭、図書室の親子DVD上映会の開催、リサイクルフェアなどによる「地域に開かれた学研都市づくり」を意識した取り組みがなされている。

ひびきの祭においては、地元自治会やまちづくり協議会等との連携による学研都市内の施設を活用した、「ひびきの秋祭り」を開催し、多くの市民の方や地域住民に学研都市の魅力をPRした。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など				
① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。				
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。				
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。	10	4	8	
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。				
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。				
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。				
⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。				
【評価の理由、要因・原因分析】 ① 個人情報の保護について F A I Sが定めている個人情報等取扱規程及び情報セキュリティ対策規程を適正に運用し、個人情報保護に努めている。 (具体的な取り組み) ・ P C 不正接続の監視 ・ 情報資源に対するアクセス制御、パスワード保護 ・ ユーザとコンピュータの管理 ・ 外部からの不正侵入の防止 ・ ウイルス対策 ② 施設の平等利用について 条例・規則の他、「学術研究施設管理要綱」や「学術研究施設開放要綱」等の関係規程に基づき、一般開放している施設について、施設予約システム及び管理台帳で利用状況を一元的に管理した上で、公正平等かつ適正な利用調整及び使用許可を行った。 ③ 利用者が限定される施設の公平性について 利用者が限定される施設の利用に関しては、予約が重なった時には利用日時の調整などを行い、申込者が公平に利用できるように努めた。 ④ 指定管理業務の収支の内容について F A I Sから提出された収支明細について、不適切な部分はなく、毎年公認会計士による内容のチェックが行われている。 ⑤ 日常の安全対策について 各施設に24時間体制で警備員を常駐させ、受付での来館者・入居者対応を行うとともに、巡回警備を実施し、事件・事故の未然防止や早期発見及び被害の拡大防止を図った。				

(具体的な取り組み)

- ・梅雨前の施設点検、豪雨や台風時の施設巡回点検及び補修
- ・建物、設備の日常点検及び迅速な補修

⑥ 防犯、防災などの危機管理体制について

学研都市は、研究施設や図書館、体育館など多くの施設が設置され、大学や企業関係者、一般市民など様々な方が利用しているため、機械警備システムや常駐の警備員の巡回、防犯カメラを設置して利用者が安心して利用できる体制づくりを整えている。

(具体的な取り組み)

- ・春及び秋における消防訓練の実施
- ・若松警察署（高須交番）と連携した巡回パトロール

⑦ 事故や災害発生時の対応について

設備関係においては、環境エネルギーセンターに常時委託の専門業者を配置し、警備に関しては、機械警備システムと常駐の警備員を各施設に配置するとともに、警備員による夜間巡回実施等により、管理体制をとっている。また、市や関係施設と連絡がとれるよう緊急連絡網を整備し、非常災害が発生した場合も、適切に対応できる体制を整えている。

【総合評価】

合計得点	7 2	評価ランク	B
【評価の理由】			
北九州学術研究都市の設置目的・理念を理解しつつこれまでのノウハウを活用し、産学連携の場の創出等のソフト事業と、施設・設備の適正な管理運営を行うハード事業の一体的な管理が効果的に行われた。			
また、アンケートや入居者への訪問などにより利用者からの要望、意見等を的確に把握することで、施設の管理・運営の改善や市への提言等につなげ、市の要求する利用者の満足度を達成した。			
【今後の対応】			
昨今の産業を取り巻く社会変遷へ敏感に対応し、時宜にかなった各ソフト事業を行うことで、学研都市の魅力や認知度を向上させ、設置目的の達成に努めてもらいたい。			
また、経年による各施設の老朽化が進行しつつあることから、日々の点検等で各施設の状況を適切に把握し、計画的かつ迅速な対応を進めてほしい。			
昨年度10月にできたコミュニケーションスペースを活用したイベントやセミナーの開催が増えたことで、学研都市に関わる人たちへ新たな相互交流・共創の場を提供できるようになったことから、さらなる産学連携の推進・学術振興を図るため、これまで培ったノウハウを生かし、大学・研究機関、一般の方々にも安全で利用しやすい、「市民に開かれた学術研究都市」となるような取り組みを期待したい。			

〔北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見〕

適正に評価されている。

今後も、市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。

【評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

【総合評価】

- A：総合評価の結果、優れていると認められる
(合計得点が80点以上)
- B：総合評価の結果、やや優れていると認められる
(合計得点が70点以上80点未満)
- C：総合評価の結果、適正であると認められる
(合計得点が60点以上70点未満)
- D：総合評価の結果、努力が必要であると認められる
(合計得点が50点以上60点未満)
- E：総合評価の結果、かなりの努力が必要であると認められる
(合計得点が50点未満)